

愛知学院大学薬学部の地域連携活動推進について

脇屋 義文

社会連携活動推進委員会委員長

薬学教育の6年制課程は薬剤師養成を第一の目的として設置されたことは周知のとおりである。また、将来、医療現場で実践に携わる者以外に製薬企業、研究機関などで医薬品研究開発に関わる者、大学などで教育に携わる者、医薬行政に関わる者などを旨すにしても『まずは医療現場を知る薬剤師になる』ことが6年制教育を受ける場合の前提となっている。さらに6年制教育には、高度の専門知識、技能はもちろん、予期せぬ、あるいは全く新しい問題、課題に挑戦する意欲とそれを解決する能力、倫理、幅広い人間力などが要求されている。

この中で、「倫理、幅広い人間力」に関する教育として、平成27年度からの新コア・カリキュラムには、「多職種連携協働とチーム医療」(GIO；医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける)の項目がある。さらに、薬学部第三者評価に関する評価項目の中には、「社会との連携」という項目があり、「地域の薬剤師会、病院薬剤師会、医師会などの関係団体及び行政機関との連携を図り、医療や薬剤師等に関する課題を明確にし、薬学教育の発展に向けた提言・行動に努めていること」とある。

これらの項目は、大学の中だけでの教育では不可能であることから、愛知学院大学薬学部では平成26年度より「地域連携活動推進委員会」を設置し、「医療人としての人間的な態度修得を通しての倫理・幅広い人間力の醸成」を目的に、中津川市との連携を模索し始めたところである。

模索中の一例として、中津川市が企画した「将来の地域医療を担う人材育成を目的としたメディカルキッズ」に、5年次学生2名がボランティアとして参加したので報告する。



学生は、医師の診察・診断体験時の患者役として参加した。事前打ち合わせとして、中津川市の行政の方々、中津川市民病院の医師、看護師、薬剤師、技師の方々、さらに、中京学院大学看護学部看護学科の先生や学生の方々と、参加する小学生にどのようにしたら有意義な体験が可能となるかを目的にディスカッションを行った。

事前の打ち合わせのおかげもあり、参加した小学生たちは大喜びで、また付き添いの保護者たちにも好評であった。学生は、なれない患者役として、小学生たちを上手に誘導していた。体験終了後には全員で反省会を行い、学生は、多くの職種の人たちと関わったこと、普段係ることのない小学生に戸惑ったことなどについて感想を述べていた。



このように大学の中では学べない、子供との接し方や多職種（医師、看護師、行政）との連携に関することなどを実践的に学ぶことができた。さらに、人との関わり大切さをあらためて実感したものとする。

今後はさらに中津川市と連携を図り、今後継続的な活動が可能となるように連携協定の調印や多くの学生が参加できるような企画を考え、倫理・幅広い人間力の修得につなげていきたい。

